

150th 通信

第2号

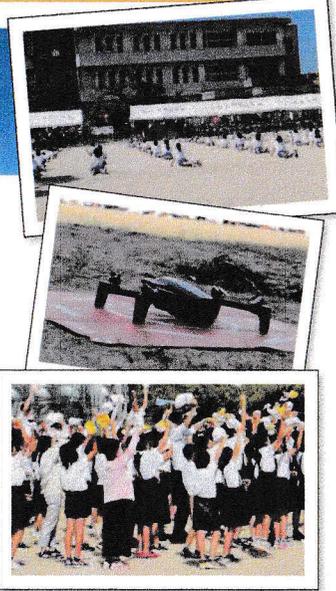
令和5年
10月20日
発行

高田小学校150周年実行委員会 広報部

秋晴れの空、見上げて ～運動会とドローン撮影～

9/30(土)は高田小の運動会がありましたミン。秋晴れの空の下、みんな日頃の練習の成果を思い切り発揮したミン！体操服を砂だらけにして、笑顔でがんばっている子供達の姿に見ている人々にも力をもらったミン。

そして翌週 10/3(火)にはドローン撮影！先生が運動場にきれいに石灰で書いた文字の近くに並ぶ全校児童。眩しい空を見上げて、ドローンに向かって手を振ったミン！撮影された動画と写真は、これからいろんなところで使われていくミンよ。お楽しミンに～！



高田夏祭り大成功！

8/11(金)に高田コミセンで「高田夏まつり」が開催されたミン！150委員もはりきってかき氷やコダミンググッズを販売したミンよ。とっても暑かったので、かき氷・飲み物は大繁盛！グッズコーナーには、児童たちと一緒に作ったしおり・缶バッジ・うちわなどに加えて、限定販売の金太郎飴とコダミンパンもお目見え。どれを買おうか悩む子どもたちでにぎわったミン。ご来場ありがとうございましたミン！コダミングッズは式典の第三部でも販売予定。おこづかいをためておいてね♪



お寺でお焚き上げ&成功祈願

9月10日、八代大師院様にて七夕短冊のお炊き上げと150周年記念式典の成功祈願をしていただきました。高台にある、町を一望できるお寺です。きれいな空気の中、お経をあげていただき、私たち委員会も気持ちひきしまりました。みなさんが書いた短冊のお願い事は、空までのぼって彦星と織姫が受け止めてくれていますよ！



ミ～だのぎゃんまつ しつとらす! Citrus Trivia

学校に行けない!? ～西南の役～

「いつも当たり前のように学校に行けて、当たり前のように授業が行われる。それが当たり前のように思っていた。」コロナ禍を経験したみなさんは、それが当たり前じゃなかったことをとってもよく知っていると思います。

明治10年(1877年)、新政府軍と薩摩藩による西南の役(西南戦争)があったことは歴史で学びますが、八代市もその戦場となったのは知っていますか？薩摩軍の辺見十郎太が裁柳園(植柳上町)に本陣を置き、高田の地も激戦地。その影響を受けて、高田小学校もほとんど休校をしなければならなくなりました。「学校に行きたい、友だちに会いたい。」それができなかったことが、むかしもあったんですね。

高田の昔の写真、大募集!

150周年記念誌を作るにあたり、高田の古い写真を集めています。昔の風景・生活・人々の様子など、どんなものでも、一枚からでも結構です。ぜひお貸しください！劣化が激しいものは状態によりまですので、ご相談ください。

連絡先…実行委員会 総務部
090-2966-3379(小庵)

編集後記

式典まで残り一ヶ月を切りました。みなさんも運動会を終え、式典に向けての準備で大忙しだと思います。学年行事がこれからの人もいますね。寒くなったので、みかんを食べて風邪予防もしっかりとしましょうね♪

合言葉は「さいこうだ!」

温故知新

高田小学校、
① 150年から200年へ

今から150年前、明治時代に高田小の前身「温知学舎」は産まれました。その名前にはどんな思いが託されていたのでしょうか。当時の高田小学校（温知学舎）に託した人たちに思いを馳せながら、現代との共通点を探してみましょう。

温知学舎（おんちがくしゃ）ってなんだろう？

高田小学校は、明治五年に温知学舎として地元の人たちで設立されました。温知とは温故知新が由来。明治初期には日本のあちこちに同じ「温知学舎」という学校がたくさんありました。「温故知新」とは中国の思想家・孔子の「論語」からきていた言葉です。訓読すると「故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る。わかりやすく言うと「古くから伝わる教を学び、新しい知識を得ること」です。

孔子の言葉や考え方は、中国や日本だけではなく、アジアの様々な国の人々に知られています。もちろん学問としてだけではなく、道徳観や人と人との交流をよりよいものとする軸として、社会の様々な分野でも引用されています。



世代（横軸）と時代（縦軸）でつながる小学校

学校の中でも、小学校は特に地域と関わりが深い公的機関です。地域の住民の方々と支え合いながら、歴史を作ってきています。小学校を作った人、動かす人、教える人、学ぶ人、支える人、たくさんの人たちがつなぐ歴史です。

世代（横軸）のつながりは、今を共に生きる児童・保護者・教職員・地域住民同士の助け合いのこと。これなしでは、教育が成り立たない部分も多々あります。一方、時代（縦軸）のつながりは、時代や世代間の助け合いになります。過去（明治～平成）の学校関係者の投資や活動努力により成立していることが身の回りにたくさんあります。様々な価値観を認め合う時代になった現代。たくさんの課題を抱えてしまっ、横軸のつながりを助け合うシステムがうまく機能しない世の中になってきました。横軸の行き詰まり感を解消したり、改善する努力は、長い目で見れば、縦軸で未来に生きる人たち（児童、保護者、教職員、地域の人たち、未来の自分や子どもや孫）にできる投資であり、



未来へ託す助け合いになっていきます。過去の人に恩返しや要望はできませんが、「同じような思い」は形が変わっても、未来の学校関係者にもリレーできます。これがやがて縦軸の時代や世代を超えた助け合いになっていくのです。

孔子の考え方を実践した人々

孔子が人生で貫き通してきた言葉に、「忠恕（ちゅうじょ）」があります。「忠」とは自分の良心に真っ直ぐに従うこと。「恕」は他人の身の上を思いやり、自分のことのように親身になって思いやること。人の心を自分のことのように思いやる「自分がしてほしくないことは、人にはしない。自分がしてほしいことを、人にする」精神です。

野球の日本代表・侍ジャパンをWBCで優勝に導いた栗山監督は、温知学舎の名前のもととなった論語で現代に合わせて紐解いた人の1人です。今年のチームの選手たちは「忠恕」の精神を実践しました。自分たちのチーム内だけではなく、対戦する相手チームへの態度にも、その精神はあらわれていました。

自分のことにおきかえてみよう！

栗山監督は、よく選手に本を配ったそうです。中でも有名なのが、渋沢栄一さんの『論語と算盤』という本です。渋沢さんは、戦後の日本が経済的に復興するための土台（心構えと体制）を作り上げてくれた人です。江戸時代、武士が勉強していた孔子の思想は「朱子学」が中心で、「お金もうけはいやしいこと」という考えが強かった時代でした。渋沢さんは論語を読みなおして、高い経済を、国の発展や国民の豊かさにつながるように考え直しました。この本で、渋沢さんは国や人を豊かにするための正しい心構えの経済（投資やお金の使い方、儲け方）とはなんだろうか、ということをお話してくれています。

栗山監督は、違う分野の人たちの考え方を「人間」という共通する部分で考え、自分の人生や野球に置きかえて実践し続けました。選手時代には大きな成績は残せなかったそうですが、何が大切なことは、今の結果が証明してくれています。日本人（日本で育ち、住んでいる人たち）の心の特徴を活かし、選手たちやスタッフたちの心や未来を大切に、共に人として成長してきたそうです。そんな取り組みの土台があったからこそ、アメリカ育ちのヌートバー選手を受け入れて、より良いチームとして成長したのかもしれない。

まとめ

これを、自分のクラスの班・学級・学年・学校として置き換えて考えてみると…？うーん、と考え込んでしまったり、逃げ出したくなることがありそうですね。複雑に絡み合っていて難しい部分もたくさんあります。それでも、知恵を持ち寄って共に考えて改善、解決の道を探り、進んでいかなくては行けない岐路に、私たちの世代は立たされているようです。